

戦間期文化国際主義と「新渡戸宗の使徒」

中嶋啓雄

はじめに——国際社会の誕生

「国際社会 (international society)」: 英国学派の国際政治学者ヘドレー・ブルの概念

→ D・ゴーマンによる両大戦間期への適用: 『国際社会の誕生』

⇔ E・H・カー『危機の 20 年』(1939 年)

その推進力として文化国際主義: 「国境を越えた文化的活動によって国際交流を深めようとした国際主義」(入江)

= 「連盟創設後の国際主義」(Akami) ⇔ ウィルソンの国際主義 (自由主義的国際主義) の文化的側面の呼称

主要な担い手

英米の国際主義者: イギリス帝国における「帝国主義的インターショナリズム」(マゾワー) の推進者 (王立国際問題研究所 [R I I A、別称チャタムハウス]) + アメリカの国際主義者 (外交問題評議会 [C F R])

ジュネーブやパリに集う専門家・知識人

Cf. 太平洋問題調査会 (I P R) 日本支部 (カウンシル) の中心「新渡戸宗の使徒」

I. 新渡戸宗の使徒とその活動

新渡戸宗の使徒: 第一高等学校 (一高) (現・東京大学教養学部) の在校生ないし卒業生として校長・新渡戸稲造に指導を仰いだ人々。太平洋問題調査会 (I P R) 日本支部の中心にあつて、原初的アメリカ研究集団を形成

Cf. 新渡戸稲造: 札幌農学校 2 期生として校長 W・S・クラークの指導を仰ぎ、東京帝国大学入学に際して、「太平洋の橋」となることを志す。アメリカ、続いてドイツに留学し、米国人女性と結婚して帰国。東大教授等を務めた後、国際連盟事務次長 (1920~26 年)。満州事変 (1931 年) 後、アジア・太平洋地域における国際 NGO の先駆的存在 I P R の会議で日本支部理事長として日本の立場を擁護。カナダの保養地バンフで開催された第 5 回 I P R 会議 (1933 年) 出席後、ヴィクトリアで客死。主著『武士道』(英文) (1899 年)

鶴見祐輔: 新渡戸の「日米交換教授」としての講演旅行 (1911~12 年) に同行。1920 年

代～30年代の民間外交（cf. 北米遊説記』〔1927年〕）に貢献→太平洋戦争にかけての戦争協力。アメリカに関する主著『現代米論』（1931年）（cf. 「貴方のようにアメリカを真に理解している日本人はほとんどいない」〔ビヤード〕）。長男・俊輔、長女・和子——それぞれ戦後、著名な哲学者、社会学者に——のアメリカ留学（1930年代後半～太平洋戦争勃発）

前田多門：東京市長・後藤の下、助役（副市長に相当）としてビヤード接受。国際労働機関（ILO）日本政府代表（於・ジュネーブ、1923～26年 cf. 後に火曜会初代幹事の北岡寿逸もILO帝国代表事務所長〔1936～38年〕）。^{ジャパン・インスティテュート}日本文化会館（ニューヨーク）館長（1938年～太平洋戦争勃発）。著書『アメリカ人の日本把握』（1940年）

高木八尺：日本におけるアメリカ研究の祖。銀行家A・B・ヘボン（ヘボン式ローマ字を案出した宣教師・医者J・C・ヘボンの遠戚）の寄付を「日本資本主義の父」渋沢栄一らが仲介して、1918年（大正7年）に東京帝国大学法科大学（後の法学部）に開設された「米憲法、政治及外交」〔ヘボン講座〕講座の初代講師（cf. 米欧留学〔1918～23年〕）。外国人として初めて東大文学部に留学（1935～36年）したH・ボートンを推薦（cf. 同時期、E・O・ライシャワーもボートンに続いて文学部に留学〔ライシャワーは1936～37年は京都帝国大学で研究〕）

Cf. 蠟山政道：日本における行政学の草分け的存在（cf. 欧米〔特にイギリス〕）留学〔1925～27年〕。高木の推薦で東大法学部に留学中のC・B・ファーズーライシャワー、ボートンらと並ぶアメリカにおける第一世代の日本研究者——指導（1935～36年）

Cf. 松本重治：米欧留学（1923～27年）。第3回IPR会議（於・京都、1929年）には書記として出席（J・D・ロックフェラー三世〔同じく書記として出席〕との出会い cf. 「松本と彼の妻は特に素晴らしい」〔ロックフェラー日記〕）。新聞聯合通信・同盟通信——同盟は「新渡戸宗の使徒」の聯合社長・岩永裕吉が1935年（昭和10年）に創設した国策会社——で活躍（cf. 日中和平の仲介）。戦後、国際文化会館（東京・六本木）の開館（1955年）・運営に尽力

具体的な活動

火曜会（ウィルソン倶楽部）：一高弁論部の後輩・蠟山、北岡らと共に鶴見が創設（1916年）。アメリカに縁のある松岡洋右、徳富蘇峰らが講演。石本（後の加藤）シズエも会員

鶴見の義父・後藤新平によるC・A・ビヤード招へい（1922～23年）のホスト役
…→日本における原初的アメリカ研究者集団の形成

Ⅱ．戦間期文化国際主義の生成

主要機関

R I I A : 1920 年、イギリス国際問題研究所〔B I I A〕として創設。I P R イギリス支部として機能。『ラウンド・テーブル』誌（1910 年創刊）に集う南アフリカ高等弁務官 A・ミルナーの弟子たち（「幼稚園（Kindergarten）」）が中心。Cf. カナダ国際問題研究所（1928 年創設）、オーストラリア国際問題研究所（1932 年）——それぞれ I P R 支部としても機能

C F R (Council on Foreign Relations) : R I I A の姉妹機関

国際政治学協会大会（ウィリアムズ大学、マサチューセッツ州ウィリアムズタウン）

（1921 年創設）：1920 年代における国際政治論議の中心

古典的アメリカ論『アメリカン・コモンウェルス』（1888 年）の著者でアメリカ大使も務めた J・ブライスや R・カーティス、鶴見も講演

太平洋問題調査会（Institute of Pacific Relations）

1925 年創設。当初は 3 年毎、30 年代半ば以降、数年おきに国際会議を開催。戦後、赤狩り（マッカーシズム）の犠牲になり 1961 年解散

知的協力国際委員会（ユネスコの起源）：1922 年設置。本部ジュネーブ

知的協力国際機関：1926 年創設。本部パリ

主要人物

R・カーティス：外交評論家。R I I A の中心人物。前田、高木らと交友

P・カー：カーティスと共に R I I A 牽引

A・ジマーン：初めて国際関係論が講じられたウェールズ大学アベリストウィス校（現・アベリストウィス大学）ウッドロウ・ウィルソン講座初代講師。国際知的協力機関副所長

Cf. A・トインビー：イギリスの歴史家。R I I A 研究部門長（1925～56 年）。I P R 京都会議出席。後に文明史家として広く知られるようになり、国際文化会館と連携して松本や高木が企画した特別人物交流計画で再訪日（1956 年）

J・T・ショットウェル：歴史家（コロンビア大学）。I P R 創設者の一人（第 3 回会議〔於・京都〕にも出席）。国際連盟傘下の知的協力委員会のアメリカ支部運営。ケロッグ＝ブリアン協定（パリ不戦条約）（1928 年）起草。高木らと交友

新渡戸

Ⅲ．アジア・太平洋地域の文化国際主義をめぐる諸問題

太平洋島嶼の委任統治≡ウィルソンの講和 14 か条の第 5 条「植民地の……すべての問題

を決定する際に、関係する住民の利益が、……〔植民地〕政府の
……要求と対等の比重を持たなければならない」

人種主義との戦い

「二〇世紀の問題はカラー・ラインの問題」(W・E・B・デュボイス『黒人の魂』
1903年)

×日本が連盟規約への挿入を試みた人種平等案 cf. 近衛文麿「英米本位の平和主義を排
す」(1919年)

「排日移民法」(1924年)：I P Rの当初の主要な議題

I P R会議参加資格をめぐって

日本支部（特にその保守派）によるI P R会議からの韓国代表团（グループ）排除：
東部エスタブリッシュメントに繋がるアメリカのショットウェルら、イギリス支部の
一部も同調 cf. 徐載弼（Philip Jaisohn）の活動

⇒日本支部による満州国代表团のI P Rバンフ会議参加の模索

○フィリピン、△オランダ領東インド、×フランス領インドシナ

おわりに——新渡戸宗の使徒と戦後

エリート男性による国家主義への接近：近衛首相のブレーン

∴公職追放：鶴見（1946～50年）、前田（同）、蠟山（1947～48年）、松本（1947～50
年）

Cf. アメリカ：元I P R評議員スタンレー・ホーンベック国務省極東部長（1928～37年）
の動向。エドワード・カーターI P R事務総長（1933～46年）の政府への接近

∴中国の「喪失」（1949年の中華人民共和国建国）後の1950年代前半の赤狩り（マッカ
ーシイズム）の犠牲に

日米知的交流の再生

ビアード夫人と鶴見、前田、高木らとの交友復活

国際文化会館開館（1955年）

Cf. 国際機関（ILO、ユネスコ〔1951年加盟〕）との関係（前田、蠟山、松本）

東西冷戦と国際主義の交錯

参考文献

未刊行史料

高木八尺文庫、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター図書室

John D. Rockefeller 3rd Diary, RG 5・John D. Rockefeller, 3rd Papers, ser. 1, Rockefeller

Family Archives, Rockefeller Archive Center, Sleepy Hollow, N.Y.

刊行史料（本講義が扱う人物の著書や回顧録、追悼集を含む）

北岡寿逸編（1975）『友情の人鶴見祐輔先生』北岡寿逸

斎藤眞ほか編（1985）『アメリカ精神を求めて——高木八尺の生涯』東京大学出版会

渋沢青淵記念財団龍門社編（1961）『渋沢栄一伝記資料』三七巻、渋沢栄一伝記資料刊行会

鶴見祐輔（1927）『北米遊説記』大日本雄弁会講談社

鶴見祐輔（1931）『現代米国論』日本評論社

鶴見祐輔（一海知義校訂、2006）『正伝 後藤新平』第七巻、藤原書店

前田多門・高木八尺編（1936）『新渡戸博士追想集』故新渡戸博士記念事業実行委員

ビーアド、C・A（松本重治訳、1988）『アメリカ共和国——アメリカ憲法の基本的精神をめぐって』みすず書房

堀切善次郎編（1963）『前田多門——その人・その文』東京市政調査会

松本重治（1992）『わが心の自叙伝』講談社

蠟山政道追想集刊行会編（1977）『追想の蠟山政道』中央公論社事業出版

著書・論文

有賀貞（2002）「高木八尺におけるアメリカと日本」『キリスト教と諸学』19巻、123～137頁

入江昭（篠原初枝訳、1998）『権力政治を超えて——文化国際主義と世界秩序』岩波書店

上品和馬（2011）『広報外交の先駆者・鶴見祐輔 一八八五—一九七三』藤原書店

岡村忠夫（1979）「高木八尺におけるアメリカと日本」『アメリカ研究』13号、126～144頁

開米潤（2009）『松本重治——最後のリベラリスト』藤原書店

片桐康夫（2003）『太平洋問題調査会の研究——戦間期日本 I P R の活動を中心として』慶應義塾大学出版会

北岡伸一（1993）「新渡戸稲造における帝国主義と国際主義」大江志乃夫ほか編『統合と支配の論理』岩波講座 近代日本と植民地 4 所収

北岡伸一（2019）「戦前の I L O と北岡寿逸」『ワークアンドライフ：世界の労働』44号、31～37頁

酒井哲哉（2007）『近代日本の国際秩序論』岩波書店

斎藤眞（1978）「草創期アメリカ研究の目的意識——新渡戸稲造と『米国研究』」細谷千博・斎藤眞編『ワシントン体制と日米関係』東京大学出版会所収

塩崎弘明（1998）『国際新秩序を求めて——R I I A、C F R、I P R の系譜と両大戦

- 間の連携関係』九州大学出版会
- 篠原初枝（2003）『戦争の法から平和の法へ——戦間期のアメリカ国際法学者』東京大学出版会
- 高原秀介（2006）『ウィルソン外交と日本——理想と現実の間 一九一三～一九二一』創文社
- 高光佳絵（2019）「戦間期カナダ外交における『太平洋問題調査会』についての予備的考察—満洲国バンフ会議参加問題を中心に」『アジア太平洋討究』三五号、三～一三頁
- 中嶋啓雄（2008）「チャールズ・A・ビアードと日米関係——国際主義と孤立主義」『EX ORIENTE』15巻、119～135頁
- 中嶋啓雄（2013）「チャールズ・A・ビアードの反『帝国』論再考」秋田茂・桃木至朗『グローバルヒストリーと帝国』大阪大学出版会所収
- 中嶋啓雄（2016）「歴史的視座から見たアメリカ学会」『アメリカ研究』別冊 50周年記念特別号、11～25頁
- 中西寛（1990、1991）「二十世紀国際関係の始点としてのパリ講和会議（一）、（二）・完—若き指導者たちの国際政治観」『法学論叢』128巻2号、48～77頁、129巻2号、39～63頁
- 中見眞理（1985）「太平洋問題調査会と日本の知識人」『思想』728号、105～127頁
- 「二〇世紀と日本」研究会編（2018）『もうひとつの戦後史——第一次世界大戦後の日本・アジア・太平洋』千倉書房
- 廣部泉（2007）「国際連盟知的協力国際委員会の創設と新渡戸稲造」『北海道大学文学研究科紀要』121号、1～21頁
- ブル、ヘドレー（臼杵英一訳、2000）『国際社会論——アナーキカル・ソサイエティ』岩波書店
- マゾワー、マーク（依田卓巳訳、2015a）『国際協調の先駆者たち——理想と現実の二〇〇年』NTT出版
- マゾワー、マーク（池田年穂訳、2015b）『国連と帝国——世界秩序をめぐる攻防の二〇世紀』慶應義塾大学出版会
- 松本佐保（2014）『「ラウンド・テーブル」運動とコモンウェルス——インド要因と人種問題を中心に』山本正・細川道久編『コモンウェルスとは何か——ポスト帝国時代のシフトパワー』ミネルヴァ書房所収
- ミニチェロ、シャロン（升味準之輔翻訳協力、1993）「知識人と政治——高木八尺と松本重治、一九三一—一九四一」有馬学・三谷博編『近代日本の政治構造』吉川弘文館所収
- 藪田有紀子（2016）『レナード・ウルフと国際連盟——理想と現実の間で』昭和堂
- 油井大三郎（2016）『未完の占領改革——アメリカ知識人と捨てられた日本民主化構想』増補新装版、東京大学出版会

- Akami, Tomoko (2002) *Internationalizing the Pacific: The United States, Japan, and the Institute of Pacific Relations in War and Peace, 1919-45*. London: Routledge.
- Akami, Tomoko (2012) Japan's News Propaganda and Reuters' News Empire in Northeast Asia, 1870-1934. Dordrecht, Netherlands: Republic of Letters.
- Akami, Tomoko (2017) "Imperial Politics, Intercolonialism, and the Shaping of Global Governing Norms: Public Health Expert Networks in Asia and the League of Nations Health Organization, 1908-37." *The Journal of Global History*, vol. 12, no. 1, pp. 4-25.
- Ceadel, Martin (2009) *Living the Great Illusion: Sir Norman Angell, 1872-1967*. Oxford: Oxford University Press.
- Cotton, James (2012) "Rockefeller, Carnegie, and the Limits of American Hegemony in the Emergence of Australian International Studies." *International Relations of the Asia-Pacific*, vol. 12, no. 2, pp. 161-92.
- Gorman, Daniel (2012) *The Emergence of International Society in the 1920s*. New York: Cambridge University Press.
- Griffith, Sarah M. (2018) *The Fight for Asian American Civil Rights: Liberal Protestant Activism, 1900-1950*. Urbana, Ill.: University of Illinois Press.
- Josephson, Herald. *James T. Shotwell and the Rise of Internationalism in America*. Vancouver: Fairleigh Dickinson University Press, 1975.
- Nakajima, Hiroo (2013) "Beyond War: The Relationship between Takagi Yasaka and Charles and Mary Beard." *Japanese Journal of American Studies*, no. 24, pp. 125-44.
- Ninkovich, Frank (2009) *Global Dawn: The Cultural Foundation of American Internationalism, 1865-1890*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- Sasaki, Yutaka (2010) "Foreign Policy Experts as Service Intellectuals: The American Institute of Pacific Relations, The Council on Foreign Relations, and Planning the Occupation of Japan during World War II." In G. Kurt Piehler and Sidney Pash, eds., *The United States and the Second World War: New Perspectives on Diplomacy, War, and the Home Front*. New York: Fordham University Press.
- Takeuchi-Demirci, Aiko (2018) *Contraceptive Diplomacy: Reproductive Politics and Imperial Ambitions in the United States and Japan*. Stanford, Cal.: Stanford University Press.